

令和元年度
地域共創フラグシップハイスクール事業
活動報告書

岐阜県立可児高等学校
(特別活動部)

「地域共創フラグシップハイスクール」指定

可児市議会高校生議会まで

平成二十七年より本校は、総合的な学習の時間の取り組みの一環として、特定非営利活動法人「縁塾」が主催する「夏のオープンエンリッチプロジェクト」に参加してきた。「高校生が学校や家庭の中では学べないことを、地域で活躍する本気の大人から学び取ろう」と、当時本校に勤務されていた浦崎太郎元教諭（現大正大学・地域創生学部教授）の呼びかけに応えた可児高等学校卒業生の有志によって結成された「縁塾」が母体となりその活動が始まった。

例年、「地域イベントのスタツフ体験」、「職場体験」、「大人との働き方・生き方についての対話」、「大学生との進路についての対話」等の2時間程度の講座に1年生は原則全員参加、2年生・3年生の希望者が参加することになっている。

本年度、本校が岐阜県教育委員会より「地域共創フラグシップハイスクール」の指定を受け、総合的な学習の時間の取り組みについて縁塾代表・松尾和樹氏と、本年度の開講講座や方針について検討を始めた。これまで「大きく変化しつつある社会の中で子ども達が【自分らしくイキキ】と生きていくためには自分の人生を自らデザインする力が必要。そのためには、多様な価値観や働き方に触れ、自分にとつての幸せ・喜びは何なのか?」について考える機会を提供していきたい。地域の中で本気の大人や大学生と出会うことが高校生の可能性を広げる。」という松尾代表の想いを踏まえ、前年度の内容を踏襲しつつ、昨年度まで縁塾の主催行事であったが、本校との共催行事とすることが決まった。さらに、本年度からは全ての講座をSDGs*1準拠にした。また、夏のオープンエンリッチの開講時期とほぼ同時期に岐阜大学地域科学部と岐阜県教育委員会共催のスーパーハイスクールセッションへの参加、秋の可児高校模擬選挙、そして1月末に海外フィールドワークに行くことが予定されていた。2月の可児市議会でも実施される高校生議会までそれぞれの活動を単発に終わらせることなく「点と点を線でつなぐ」計画を考え、実行に移すこととなった。

*1

(SDGsとは国連が定めた二〇三〇年までに達成すべき17の目標、「Sustainable Development Goals」(持続可能な開発目標)の略称で、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標のこと)

可児高等学校・令和元年度FRH活動イメージ

